



上\_生徒会を代表し5名が鈴木町長を訪問 下\_大人から子どもまで多くの方の善意で集まった義援金

新庄南高校金山校の生徒会が西日本豪雨災害を受け、7月19日から24日にかけての登校日に募金活動を行いました。登校時間には学校玄関付近で生徒を対象に、16時から30分間は町内小売店の出入り口に立ち、募金を呼びかけました。生徒会長の西田侑叶さんは「テレビなどで被害の大きさを見て、自分たちにも何かできることがないかを考えた。多くの方が立ち止まって募金をしてくれた。」

皆さんの善意に感謝したい」と話していました。4日間で集まった災害義援金は45、133円。活動最終日の24日には、西田侑叶さん、柿崎真菜さん、佐藤友香さん、正野杏奈さん、佐藤海飛さん5名が小野洋二先生とともに生徒会を代表して鈴木町長を訪問。活動を報告するとともに、西日本豪雨災害への災害義援金として、日本赤十字社山形県支部に寄託されました。

## 集

まった義援金は45、133円  
西日本豪雨災害を受け金山校で募金活動

## 夏 休みにイザベラ塾 解き方や考え方のコツを習得



7月30日から4日間、イザベラ塾を開講し、約30名の小学生が参加しました。家庭学習の充実による学力向上を目指して、2年前から夏休み期間に行っているイザベラ塾。民間学習塾講師が、解き方や考え方のコツを理解することに重点を置いた指導を行いました。参加した児童は「学校の授業では聞けないことも勉強することができた」と話していました。

## か ねやま大楽校が開校 全5回の講座でスキルアップ



今年度のかねやま大楽校が開校し、8月3日に第1回目として「伝えたいことが伝わるための講座」が行われました。大堰休憩所を会場に、町内外から約20名の若者が参加。講師からは「伝えたい内容によってターゲットを絞る必要がある」などとアドバイスがありました。講座は12月まで全5回。修業旅行などで交流を図りつつ、スキルアップを目指します。

## 青 少年健全育成町民大会 スポーツを通じ正しい指導を



7月31日、町青少年健全育成町民大会が開催され、アランマール山形バレーボールチームの北原勉監督と田中修二トレーナーからご講演をいただきました。北原監督は「あまり言い過ぎず、自ら考えて行動できる力を育てることが大切」と指導時のポイントを指南。その他、事例発表では金山町地域伝承・昔話研究会の皆さんが紙芝居を披露されました。

## 育 英会奨学生が懇談 少子高齢化について考える



8月16日、町育英会奨学生34名が出席し、懇談会が行われました。町教育委員会による講話は、グループワーク形式。金山町の施策を学びながら、少子高齢化社会における生き方について考えを巡らせました。講話の後、代表して12名の奨学生が、現在学んでいることや今後の学生生活の目標など、近況報告を行いました。



右\_日本山岳会山形支部の皆さんと各小学校代表児童で記念撮影。額入りのスケッチの他にも日々の学習で使いやすいように縮尺版スケッチも贈呈 左\_児童を代表して明安小6年の正野陽香さんが感謝の気持ちを伝えた

平成28年に施行された山の日になみ、子ども達にも山に親しんでもらおうと日本山岳会山形支部が始めたこの事業。3年目となる今年は、町の70%が森林であり、林業が盛んで山と密接な関係のある金山町が事業の対象に選ばれました。受け取った児童を代表して、明安小学校6年の正野陽香さん(下野明)が「貴重なものをいただいた。学校での勉強に役立てながら大切にしていきたい」と感謝の気持ちを伝えていました。

## 日 本山岳会山形支部から寄贈 「学校から見える山」スケッチで地域の学習を

8月6日、日本山岳会山形支部(野堀嘉裕支部長)が町と町内3小学校に「学校から見える山」スケッチを贈呈されました。県内のイラストレーターが描いたアクリル画で、鳥かん図と展望図の2種類。鳥かん図は町上空から北方の山々が、展望図には東の方向に見える神室連峰の山並みが描かれており、ともに金山杉製の額縁に入っています。